

英語英米文学研究

第 37 号

-
- 英文学教師として三十有余年…………… 東 中 稜 代… 1
考古学的想像力—『ダロウェイ夫人』における生死のヴィジョン
…………… 植 田 和 文…12
ワシントン・アーヴィングと日本…………… 藤 谷 聖 和…24
河野淳子先生へのインタビュー
…………… 英語英米文学合同研究室院生…27
-
- 翻訳：バイロン作『醜男変身譚』
…………… 良 田 玲 子…36



東中稜代教授



植田和文教授

2009年3月31日をもって御退職

執筆者一覧

- 東 中 稜 代 龍谷大学大学院文学研究科 英語英米文学専攻
教授 英文学担当
- 植 田 和 文 龍谷大学大学院文学研究科 英語英米文学専攻
特任教授 英文学担当
- 藤 谷 聖 和 龍谷大学大学院文学研究科 英語英米文学専攻
教授 米文学担当
- 河 野 淳 子 龍谷大学 文学部 講師 英語学担当
- 良 田 玲 子 龍谷大学大学院文学研究科 英語英米文学専攻
博士後期課程 1回生 (英文学)



2008年度活動報告

《談話会》

4月25日(金) 16時～17時半 於 英語英米文学同研究室

- ・変形生成文法における補文(従属節)構造について

石井 正則 (M1)

- ・The Meaning of Human Existence in *Hamlet*

野山 雅代 (M1)

《講演会》

5月25日(日) 14時～16時 於 龍谷大学大宮学舎西翼大会議室

講師 桂冠詩人 Andrew Morton (アンドリュース・モーション)

ロンドン大学教授

演題 Reading from My Poems

《研究発表会》

9月15日(月) 14時～17時 於 清和館 3F

- ・The Symbiosis Writers in Nottinghamshire:

G.G. Byron, D.H. Lawrence and Alan Shillitoe 良田 玲子 (D1)

- ・不純な肉(体) — Ruth L. Ozeki の *My Year of Meats* における
交差と混交 森脇 正史 (龍谷大学非常勤講師)

- ・講演 バイロンと「物尽くし」 — *Don Juan* の場合

東中 稜代 (龍谷大学文学部教授)

《修士論文中間発表会》

第一回

9月24日(水) 15時半～18時半 於 英語英米文学同研究室

- ・*Anthony and Cleopatra*: An Analysis of Cleopatra

小林 さつき (M2)

- ・Talk in Interaction: Conversation Analysis vs Relevance
Theory

藤本 麻紀 (M2)

第二回

10月8日(水) 15時半～18時半 於 英語英米文学同研究室

- ・An Analysis of Male Characters in the Novel of Jane Austen
— Mainly on *Pride and Prejudice* and *Emma* —

浅尾 健二 (M2)

- ・Nick Carraway's Critical Eye

— An Analysis of Main Characters in *The Great Gatsby* —

澤 大悟 (M4)

- ・Syntactic and Semantic Analysis of Adverbs

中野太加志 (M2)

37号編集後記

1973年に『英語英米文学研究』創刊号が発行されてほぼ37年となる。



一昨年2007年に英文学研究室の創設40周年を祝ったことを考えれば、その後速やかにこの研究雑誌が創刊されたようだ。その37年余は今回退職なさる東中先生の龍谷での教育歴・研究歴にほぼ重

なる。その間を偲んで、37号はこれまでになかった企画を盛り込むことになった。創刊号・第2号の巻頭の辞で、小川二郎先生は‘今’論文を書くことの必要性、発表することの重要性を論じていられる。またその発表の機会を龍谷にあって得る事の幸運をも示唆していच्छる。これから慮るにこの雑誌は先ずは院生・研究生・修了生の論文執筆を鼓舞し、論文発表の機会を提出するにあつた。しかし同時に、そのように‘論文’を要

求せざるを得ない風潮に押し流されて安易に‘論文’を認め、発表するということにならないようにとの戒めも小川先生の文章には窺える。論文の前に先ず研究あり、研究の前に真摯なる愛智の志が必



要とされる。社会風潮に嘯いて、己が目指すところに弛まず前進できるのは同学の友あってこそである。

そうした院生達の間、合同研究室も此の頃は寂しくなった。文学研究科院生の数の減少は本学のみに見られる現象ではないが、同窓生皆様の大いなる御助力なくしてはこの『英語英米文学研究』の発行さえ難しくなっている。このような状況から、37号は2008年度末をもって定年退職なさる両先生に寄稿を御願いし、藤谷先生の出版予告、又3月4日南禅寺『順正』で行った東中先生・植田先生・修士課程修了者・博士後期課程退学者の送別会の模様を知らせ、翻訳を載せるという新機軸を打ち出した。

昨今、英語教育において翻訳をどう位置づけるかが議論される事が多いが、信頼するに足る翻訳技術をその言語文化圏で持つかどうかは実はその文化圏の興隆・維持を左右する程重要なものと訳者は考えている。この翻訳の活字化を機にバイロンをお読みくださって誤訳迷訳の御指摘を頂ければ幸甚である。

また院生達の関心の的留学に関しても、河野先生にインタビューを御願いした。先達後進諸氏のお役に立つことを念じている。今回の企画を機に以後も数年に一度はこのような研究室の近況を御知らせする先例となれば幸いである。

(2009年3月31日 R.Y.)

投稿規定

1. 投稿有資格者は、本会員および本会が依頼した者に限る。
2. 投稿論文は未発表のものに限る。ただしすでに口頭で発表したものについては、その旨を明記すること。
3. 投稿論文の内容は、原則として英米文学・英語学・英米文化に関する論文及び翻訳であること。
4. 長さは、和文の場合 400 字詰原稿用紙 30 枚程度、英文の場合は必ずタイプ（ダブル・スペース）で A4 版用紙を用い 25 枚程度（1 枚 65 ストローク × 25 行）とする。
5. 書式については、基本的に *MLA Handbook for Writers of Research Paper, Sixth Edition* あるいは『MLA 英語論文の手引第 6 版』（北星堂）に準ずる。
6. 応募原稿締切は、毎年 1 月末日とする。
7. 応募原稿の採否については、編集委員会が審査決定する。
8. 掲載された論文等（書誌情報、画像情報、本文）の著作権（著作財産権、copyright）は個人に帰属するが、電子化し公共の利用に供する場合は複製権及び公衆送信権について許諾するものとする。

英語英米文学研究（第 37 号）

編集兼発行者	龍谷大学大学院英語英米文学会
発行所	龍谷大学大学院英米文学研究室 〒600-8268 京都市下京区七条大宮 TEL (075) 343-3311(代)
発行日	2009 年 3 月 31 日
印刷所	西村印刷株式会社 〒602-8246 京都市上京区上長者町通黒門東入 TEL (075) 441-4108(代)

The Graduate School Review of the English Language and Literature

Vol. 37

Teaching English Literature for Some Thirty Years	Ituyo HIGASHINAKA... 1
The Archaeological Imagination: Visions of Life and Death in <i>Mrs Dalloway</i>	Kazuhumi UEDA...12
Washington Irving and Japan.....	Seiwa FUJITANI...24
An Interview with Dr. Junko Kono Conducted by Postgraduate Students of English, Ryukoku University	27

Translation: <i>The Deformed Transformed</i> by Lord Byron	Reiko YOSHIDA...36
---	--------------------

Published by
The Society of the Graduate School of English,
Ryukoku University